

新書大賞 2023

世界や日本の“今”を知りたいなら、「新書」を読もう！
進路を意識し始めたら、「新書」の＜読み時＞です。



順位	書名	著者名	出版社	コメント
第1位	現代思想入門	千葉雅也	講談社	「秩序と逸脱」をテーマに書かれた現代思想の入門書。立命館大学文学部の授業「ヨーロッパ現代思想」がベース。
第2位	映画を早送りで見ると	稲田豊史	光文社	若者に多いとされる「倍速視聴」。作品を「鑑賞」ではなく「消費」する人たちの理由と社会の背景を探る。
第3位	人類の起源	篠田謙一	中央公論新社	古代人のDNAを解析して人類の起源を辿る古代DNA研究。環境や病とヒトとの関係をも解き明かせるという。
第4位	世界インフレの謎	渡辺努	講談社	ロシアによるウクライナ侵攻、新型コロナウイルスによるパンデミック。だが、今の世界インフレの原因はそれだけではない。
第5位	聞く技術聞いてもらう技術	東畑開人	筑摩書房	臨床心理士の著者がそとと教えてくれる技術。誰もが身につけて普段から実践することで、周りも自分も救われる。
第6位	スピノザ	國分功一郎	岩波書店	著書『エチカ』で知られる17世紀オランダの哲学者スピノザ。専門家が著した専門家のための本。
第7位	22世紀の民主主義	成田悠輔	SBクリエイティブ	「学者」が専門外の「政治」について、「素人」として日本の国を少しでも良くしたいという強い思いを持って書いた本。
第8位	80歳の壁	和田秀樹	幻冬舎	高齢者医療に携わる医師が、高齢者自身が抱える問題について丁寧に助言する。介護や医療に進路を考えている人は必読。
第9位	人権と国家	筒井清輝	岩波書店	今や最重要課題である人権問題。国際社会の一員として、海外の人権問題に「国家として」取り組むことの重要性を解説する。
第10位	ファスト教養	レジー	集英社	お手軽な教養を求めるビジネスパーソン。そうせざるを得ない日本社会のあり方を、会社員でもある著者が自問しつつ考える。